

2004年4月9日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
広報部 03-5614-1078
 mail address : koho@fuji-keizai.co.jp

食品・化粧品分野などの生物由来有用成分・素材市場調査を実施

「動物」から「植物」へ、「ファイトケミカル」が今後のトレンド

< 2004年市場規模予測 >

生物に由来する生理活性成分・素材市場（40品目）は690億円（1998年比192.2%）
 動物由来及びバイオテクノロジー成分・素材（14品目合計）が340億円（1998年比130.5%）と約半分を占める
 伸長率（1998年比）では「ハーブ以外の植物由来成分・素材（12品目合計）」が627.9%と6倍以上に、「キノコ類（6品目合計）」が311.1%と3倍強に
 応用製品（10品目）市場規模は1998年の2.8倍の2,095億円

ファイトケミカル（Phytochemical）

名前の由来はギリシャ語で植物を意味する「phyto」、植物中から抽出された栄養素で、植物を外敵から守り、植物を食べた人も健康にするもの

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)は、生物に由来する生理活性成分・素材市場4分野40品目と応用製品市場10品目について調査した。その結果を「生物由来有用成分・素材市場徹底調査 2004年版」にまとめた。

今回の調査では、長引く不況の中でも高成長を続ける健康食品・機能性化粧品などの原料となる機能性素材市場の現状を分析し、今後の有望素材や将来展望を明らかにした。また、注目が高まる「海洋性有用成分」と植物性有用成分の中でも免疫改善機能で認知度の高い「キノコ類」の対象を増やし、2002年版の25品目から40品目に拡大し、応用製品市場10品目も加えた。

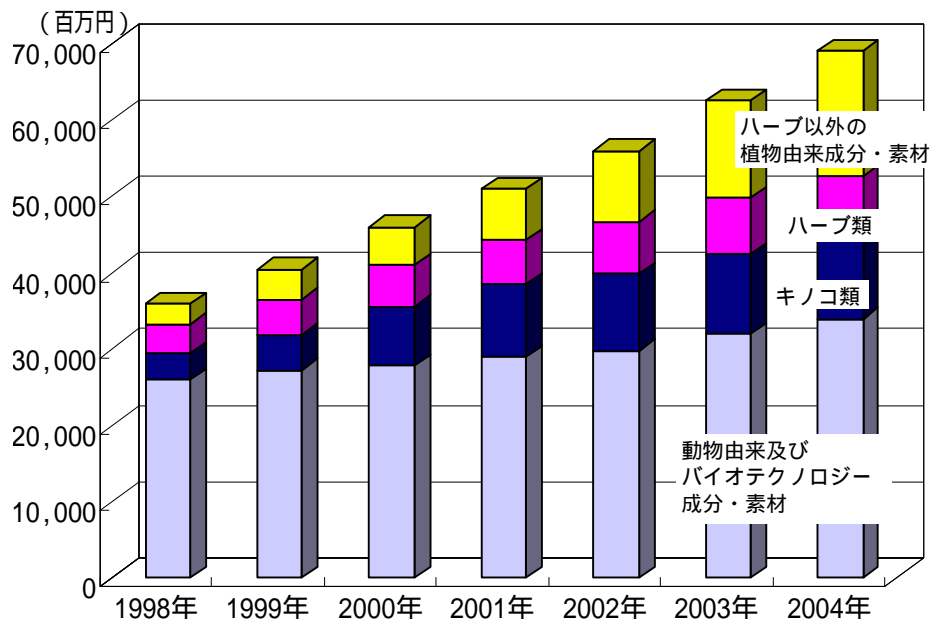
< 全体市場 >

生物に由来する生理活性成分・素材市場（40品目）規模は、1998年の約370億円から2003年は626億円とほぼ倍増し、2004年には690億円と700億円に迫る勢いである。

この市場は日進月歩の進化を続けており、機能研究が積極的に進められて、医療分野でも注目を浴びている。また、植物や動物・菌類など生物に由来するものであることから、生活者の自然志向にも合致し、高い関心と呼んでいる。

「アガリクス」のヒット、「CoQ10」や「大豆イソフラボン」といった話題の素材が市場を底上げしていることも成長を加速させる要因となっている。

また、安全・安心志向から、



動物性素材ではなく植物性素材、動物性素材の中では海洋性素材へと同じ機能を持つものの中でも抽出・加工原料へのこだわりが強まっている。菓子や飲み物など日常的な食品にも使われはじめており、生活者にとってこれらの機能成分・素材はますます身近なものになっている。

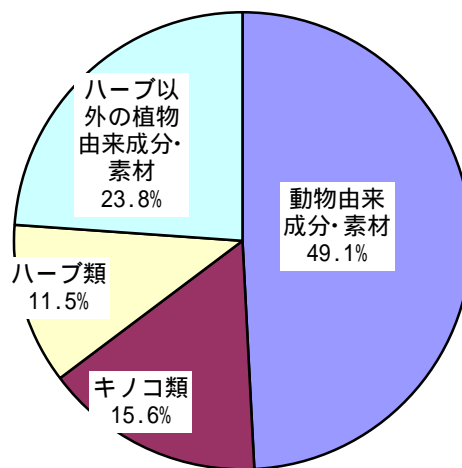
< 由来別市場 >

痛み止めの医薬品・健康食品用途で需要の安定している「コンドロイチン」、新しく食品での利用が認められた「CoQ10」や「L-カルニチン」など応用範囲が幅広い、動物由来及びバイオテクノロジー成分・素材が49.1%を占めるが、ウエイトは低下傾向にある。

素材そのものを健康食品として使用するハーブやキノコ類は既に成熟期に入っている。「アガリクス」も一時の勢いはなくなっている。

ハーブ以外の植物由来成分・素材は、12品目すべてが、2004年に2桁成長が予測されその存在感を高めている。特に、飲料のヒット商品が生まれた「緑茶抽出物(カテキン)」、黒豆の「大豆イソフラボン」をはじめ、健康食品・飲料・化粧品など応用範囲が広い「松樹皮」、「フコイダン(もずく・昆布などから抽出)」、「リコピン(トマトの赤い色素として有名)」など話題性の高い素材が多い。

由来別構成 (2004年予測)



< 成分・素材別市場予測 >

2003年から2004年にかけての成長を予測した結果、調査対象40品目中、120%以上の成長率を達成するとみられる品目が12品目、110%以上の成長品目が9品目、100%以上の成長品目が15品目となった。

伸長率	由来	市場
120%以上	動物由来及びバイオテクノロジー成分・素材	L-カルニチン、ハーブシールオイル
	キノコ類	ハナヒラタケ
	ハーブ類	明日葉
	ハーブ以外の植物由来成分・素材	リコピン、緑茶抽出物(カテキン)、トコトリエノール、松樹皮、フコイダン、ルテイン、ホスファチジルセリン、アスタキサンチン
110%以上	動物由来及びバイオテクノロジー成分・素材	CoQ10、プラセンタ
	キノコ類	メシマコブ
	ハーブ類	マカ、桑の葉
	ハーブ以外の植物由来成分・素材	セラミド、大豆イソフラボン、ナットウキナーゼ、テアニン
100%以上	動物由来及びバイオテクノロジー成分・素材	ヒアルロン酸、グルコサミン、コンドロイチン、核酸、プロポリス、DHA、コラーゲン、ローヤルゼリー、スクワラン
	キノコ類	アガリクス
	ハーブ類	エキナセア、セントジョーンズワート、ウコン、イチョウ葉エキス、ブルーベリー

< 調査の背景 >

「不況」、「食事に対する不安」、「高齢社会」など、生活の不安要素が増えるに従って、人々のセルフメデ

イクエーションの意識が高まっており、健康食品市場は現在では1兆円を超えている。中でも、研究が急速に進んでいる植物や動物など生物に由来する成分や素材については自然志向に合致したことで、生活者の高い関心と呼んでいる。特に、狂牛病などの家畜伝染病の事件が続出していることから、ニーズは陸から海、動物から植物へと向かい、2000年前後からこれらの成分・素材市場は急速に拡大している。

また、最近では「ファイトケミカル」と呼ばれる、“生物の自己防御機能成分”に注目が集まり、各種フラボノイドやカロテノイド、香気成分などの生理活性機能が話題となり、動物よりも植物、陸の生物よりも海の生物、さらにファイトケミカル、バイオテクノロジーを用いた有効成分など成分市場は多様化・複雑化している。このような市場環境を反映して、健康食品に加え化粧品用途や工業用途など応用の幅が広がっている「生物に由来する生理活性成分・素材」のバルク市場の概況を分析し、将来の展望を提示した。

< 調査対象品目 >

成分別・素材別バルク市場（4分野40品目）

動物由来及びバイオテクノロジー成分・素材14品目、キノコ類6品目、ハーブ類8品目、その他植物由来成分・素材12品目

成分別・素材別応用製品市場（10品目）

動物由来及びバイオテクノロジー成分・素材応用製品市場5品目、キノコ類応用製品市場1品目、その他植物由来成分・素材応用製品市場4品目

< 調査方法 >

弊社専門調査員による直接面接取材及び電話取材

< 調査期間 >

2004年1月～2004年3月

以上

資料タイトル	: 「生物由来有用成分・素材市場徹底調査 2004年版」
体 裁	: A4判 233頁
価 格	: 100,000円 (税込み105,000円)
調査・編集	: 富士経済 大阪マーケティング本部 コンシューマグループ TEL:06-6228-2020(代) FAX:06-6228-2030
発 行 所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp	